

大学名

信州大学(大学史資料センター)

第55号テーマ  
「大学と文化・芸術」

表題

マップ片手にキャンパス巡り：  
長野県内5キャンパスの史跡・建物などを地図にまとめた「信州大学歴史探訪マップ」

## 取材対応者(予定)

## 特色ある取組

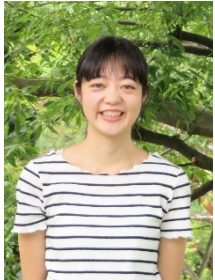


副学長(学術情報担当)  
附属図書館長 渡邊教授



大学史資料センター  
福島特任教授

明治の時代から「信州に高等教育機関を」と切望され、この地に期待を担って誕生した信州大学。その建物やキャンパスの景観は、長野県各地に設置された前身校の時代から地域と共に歩む中で、地域のシンボル・歴史資産となりました。2019年6月に、信州大学が創立70周年(旧制松本高等学校100周年)を迎えたことを記念し、県内五か所に展開するキャンパス内と、その周辺の建物、景観、史跡等をまとめた『信州大学歴史探訪マップ』を制作しました。『マップ』の活用を通じて、県内唯一の国立大学としての役割を、歴史的な観点から知っていただく取組です。



人文科学研究科2年  
中畑さん

学部学生時代から大学史資料センターに所属し、学芸員課程や大学院で学んだことを生かして、大学の歴史に関わる資料を収集・整理・保存・発信することに携わってきました。『マップ』の制作では、上田キャンパスの繊維学部を担当しました。キャンパスを訪れ、名誉教授の先生からお話を伺ったり、建物や景観の写真を撮り、「そこで学び、教えてきた人々の歴史に寄り添うこと」、「学生や地域の人に誇りを持ってもらえること」を意識しながら、マップ作りを進めました。また、『マップ』の内容をより詳細に紹介したスライドショーを作成し、記念式典の来場者にご覧いただくことができました。



←「信州大学歴史探訪マップ(1873→2019)」



↑「旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫(通称:赤レンガ倉庫)」



↑マップサンプル:松本キャンパス

## 上記取組による成果・評価 など

『信州大学歴史探訪マップ』の制作にあたり、各キャンパスの取材を通じて、信州大学の歴史的建造物が地域において果たせる役割の再確認を行い、各種メディアを通じた広報を行いました。一例として、松本キャンパス内の「旧松本歩兵第五十連隊糧秣庫(通称:赤レンガ倉庫)」は、軍都から学都への変遷の歴史を学ぶ近隣中学校からの見学地として使われたり、長野県松本地域振興局による「近代化遺産カードマップ」に取り上げられるなど、学校教育の教材や観光資源としての価値が見出されています。『マップ』の活用や、そこから展開する様々な取組を通じて、今後も地域との多面的な連携を進めていく予定です。

## 参考URL

- ・大学史資料センターHP  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/>
- ・信州大学歴史探訪マップ  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/news/publicatio/post-21.html>